

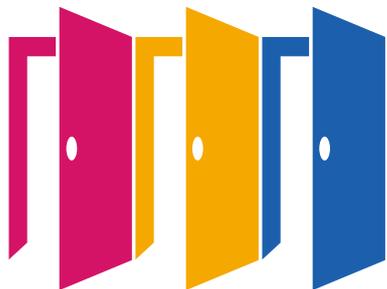
Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度国際ロータリーテーマ

2020～2021年度クラブ目標

『35年目の再構築 ロータリーの源流へ』

会長 吉野敬之
幹事 堀田一彦



第1640回例会

令和2年10月8日(18:30～19:30)

○ソング

- 四つのテスト

○ビジター

- 県南分区ガバナー補佐 遠藤武士様 (矢吹RC)
- 白河青年会議所 理事長 片野仁人様、小磯祥晃様、成井匠様、近藤有美様

○スマイルBOX

- ガバナー補佐 遠藤武士様 (第2回会長幹事会、ガバナー歓迎会出席の御礼と第3回会長幹事会への出席の要請で訪問をしました。御協力をお願いします。)
- 吉野敬之会長 (遠藤ガバナー補佐、白河青年会議所の片野理事長を始めとする皆様ようこそ。又、卓話有難うございました。先週は誕生日プレゼントありがとうございました。ケーキは無事息子がホール食いをしておりました。)
- 堀田一彦幹事 (遠藤ガバナー補佐、JCの皆様ようこそ！卓話ありがとうございました。)
- 金田昇会員 (白河青年会議所片野理事長様他みなさまようこそ。先日開催されました地区の諮問委員会にて次期県南分区ガバナー補佐に決まりました。クラブ会員のご支援よろしくお願いたします。全国初の事業承継支援センターが白河地区の5つの商工会で設立しました。仁平会員・西郷商工会長ご苦労様でした。)
- 宮本多可夫会員 (白河青年会議所の片野理事長、以下の皆さん、本日は例会へようこそ。)
- 関谷亮一会員 (青年会議所の皆様ようこそおいで下さいました。若い皆様に大いに期待を致します。益々の御発展をお祈り致します。)
- 成井正之会員 (JC片野理事長はじめJCの皆様ようこそ。片野理事長卓話ありがとうございました。10月22日の交流コンペたくさんさんの参加お願い致します。)
- 鶴丸彰紀会員 (先日結婚記念日の花束を頂きました。誠にありがとうございます。食卓が一気に明るくなり、家族も上機嫌になり、おかげ様で次回のゴルフも気持ちよく行けそうです。)
- 十文字光伸会員 (先日は結婚祝いに綺麗なお花を頂きまして、ありがとうございました。)
- 池田浩章会員 (結婚お祝いありがとうございました。遠藤ガバナー補佐ようこそ。白河JCのみなさまようこそ。片野理事長卓話お疲れ様でした。)
- 齋藤孝弘会員 (片野理事長、卓話ご苦労様。とりあえずスマイルします。)
- 永野文雄会員 (ガバナー補佐様ようこそ。青年会議所の皆様ようこそ。吉成真五郎会員先週の入会おめでとうございます。)

▶第1640回例会出席状況 (R2年10月8日)

| | |
|------------------------------------|-------|
| Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数 | 45名 |
| Ⓑ 出席免除の適用正会員数 | 14名 |
| Ⓓ 全正会員数 | 59名 |
| Ⓒ ①の出席者数 | 28名 |
| Ⓔ ①のメイクアップ者数 | 1名 |
| Ⓕ ②の出席者数 | 10名 |
| Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数) | 38名 |
| Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧) | 55 |
| Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率) | 70.1% |

▶例会日: 第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間



吉野敬之会長

皆さん、こんばんは。今日は6時半ぴったりのスタートということで、まだお越しにならないメンバーもいらっしゃるかとは思いますが、本日も例会に出席いただきましてありがとうございます。先日トランプ大統領がマスクしないで会見をしているということで非常に批判されておりましたので、私もよく考えるとマスクをしたりしなかったりでお話させていただいたので、一応批判にさらされないようマスクをしたままお話をさせていただきたいと思っております。本日もお客様をご紹介させていただきたいと思っております。まず、県南分区ガバナー補佐であります、遠藤武士様でございます。遠藤ガバナー補佐からは、ガバナーからの伝達事項ということで後程お話を頂戴したいと思っております。よろしくお願いたします。それと、本日卓話を担当していただけます白河青年会議所の皆様をご紹介いたします。まず初めに、片野仁人事理長様。小磯祥晃専務。成井匠企画室長。近藤有美副室長の皆さんでございます。小磯専務は私、小学生あたりにご自宅にお伺いして見てたような覚えがありまして、いやおうなしに自分の年を考えざるを得ないなと思ひ、ご子息の方も沢山いらっしゃるし、今日は皆さん方には後程卓話のほうを頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。それと、一つご報告がございます。先日、地区の諮問会議のほうで金田次年度ガバナー補佐が正式に承認されたことご報告いただきましたので、皆さん金田次年度ガバナー補佐のご協力のほうをお願いいたします。資格審査はかなり採めたとお話は聞いておりませんので大丈夫でございます。米山月間ということで、先週チョウ・ナンダさんのほうから卓話をいただきまして、実は非常にチョウ・ナンダさんのお話は私は先週も致しましたけど感動いたしました。米山は日本独自とはいえ、毎年うちからも地区のほうから言われてる金額には及ばないところもありますが、50万近くのお金を毎年寄付をさせていただいております。税金とかそういったお金というのは、やっぱり使い道がはっきりしないと何のために支払ってらんだらうという不満が出ると思ひますが、先週のチョウさんのお話を聞いて、知らない国に一人で来て一生懸命勉強して祖国に帰って自動車の整備工場を開きたいんだというような、やっぱりああいうふうなストレートな思い、一生懸命に頑張っている姿をお伺いして、そのためにこのお金を皆で寄付してらんだというふうに感じると、その行動が非常に納得がいく、そういう寄付にも非常に重みが出るなというふうに感じさせられた非常に良い卓話であったかなと思っております。皆さんのほうにも2年前から、一度に分担するのではなく皆さんでそれぞれ少額で寄付をしましようという形になりましたので、皆さん方まんべんなく寄付をいただいているところがございますので、その意義を十分に感じまして、今後ですれ多少大口の寄付等のご依頼もあるかもしれませんが、是非その際は「はい、喜んで。」ということでご寄付いただければ幸いかというふうに存じております。今日は白河青年会議所の理事長、片野さんの卓話ということで、白河の広域的に発展を支える会の会長のお話ということで、非常に楽しみにしております。以上で、会長の時間とさせていただきます。

■本日のお客様

○2020-2021年度県南分区ガバナー補佐

遠藤武士様



おばんでございます。私、会長と違ってマスクして話すとなかなか声が届かないと思ひますので、マスクを外して話させていただきます。今日は急な訪問で大変申し訳ございません。また、J Cの皆さん4名同席するとは、私としてもこのポジション上、J Cの卒業生がロータリーの会員になってくれることを期待しまして挨拶としていきたいと思ひます。今日お邪魔しましたのは、先日8月26日、第2回会長幹事会、そして9月のガバナー歓迎会にこのクラブより多数ご出席いただきましたありがとうございます。その返礼として今日はお邪魔しております。また、今幹事さんから報告ありましたように、第3回会長幹事会を11月5日に開くということでお願いにまいりました。また、皆さん長い在籍の方はご承知かと思ひますけれども、I Mにおいて午前中、新会員の研修会。そして、午後から講演会、懇親会という流れがここ何年か続いているというのをご承知かと思ひますけれども、私もこういうことで何度かタッチしてみても、新会員の方が10時から12時、2時間から2時間半ですか、大変難しい話をされると。そうすると、なかなか興味を持ってないというふうなことが度々あったような感じしましたので、私このポジションにおいてそういう前例もありますけど、そうじゃなくて11月5日に各クラブからが今年の1月から現在入った新会員の方対象に大体1時間か1時間半でしようか、そのセミナー的なものを開きたいなど。その時、講師陣は各クラブから地区委員が1~2名ないしは4名選出されておりますので、その方々の5分間スピーチをお願いしたいなど。その場合、題材は自由と。これ何を話してもいいと。そういうふうな計画を立てまして、皆さんのクラブにお邪魔してお願いをします。そういうふうな試みなものですから、今こちらから2名おいでになりますけど、その他に成井さんも地区委員やりましたっけか。手を挙げていただける方は出席をお願いできれば、私としては歓迎したいと思ひますので是非ご出席をお願いして、新会員の方々がこういうふうなロータリーの会員だというふうなことを認識していただきたいと。また、既存の会員の方はほかのクラブの新会員の方とも面識を持ていただきたいと、そういうふうな会合の場にしていきたいなというふうな感じをしております。そういうふうなことで、ご出席をお願いします。最後になりましたけど金田さん、今、会長が悶着おこしたというような話しましたが、そんなことはありませんから。私と同じようにもうすんなりと承認されておりますので、ひとつ次年度7月からよろしくお願いたします。そういうことで、よろしくお願いたします。

■幹事報告

堀田一彦幹事

- ガバナー事務所：2020年10月 地域社会の経済発展月間リソースのご案内、10月1日以降の友事務所運営について
- 国際ロータリー日本事務局経理室：国際ロータリー日本事務局経理室より2020年10月RIレートのお知らせ
- 国際ロータリー日本事務局事務局長 小林宏明：日本事務局事務所再開のお知らせ（2020年10月2日）
- 2020-21年度国際ロータリー第2530地区県南分区ガバナー補佐 遠藤武士：第3回会長幹事会・地区委員会合同会議開催の御案内
- 国際ロータリー第2530地区2020-21年度ガバナー 石黒秀司、RLI委員会委員長 鈴木和夫：ロータリーリーダーシップ研究会（RLI）パートII開催の御案内
- 国際ロータリー第2530地区2020-21年度ガバナー石黒秀司、米山記念奨学会委員会委員長 阿部光司：2020-21年度米山記

念奨学生による体験発表会のご案内

- ロータリー文庫事務局 青木貞雄：ロータリー文庫決算報告の件

■委員会報告

○会計



横田俊郎会計

皆さん、こんばんは。10月は会費のほうを引き落としをさせていただき予定となっております。今月の26日月曜日に、口座のほうから会費をいただきたいと思っております。後程、事務局のほうからファックスのほうを送らせていただきますので、念のためご確認ください。

○社会奉仕委員会



藤田龍文委員長

皆さん、こんばんは。遠藤様、そして青年会議所の皆様、ようこそいらっしゃいました。本日、社会奉仕委員会のほうから今日の週報の一番後ろに出てます猪苗代湖水草回収のご報告ということで写真をご覧いただければと思います。いつもよりも若手メンバーが行ったので、いつもよりも多く水草を回収させていただきました。やっちゃ駄目だと言われているのに、この写真の右下のコンテナにこんもりどうしても採ってしまうんですけど、結局重くて持てないので8割くらいにしてくださいと指導されたんですが、やはりこんもり皆さんで沢山水草を回収してきました。あと、皆さんのお食事の脇にお菓子がありますが、こちら会津で一番有名なお菓子のほうを購入してきましたので、食後の甘いものとして食べていただければと思います。

○ゴルフ愛好会



鶴丸彰紀委員

ゴルフ愛好会のほうからご連絡差し上げます。10月22日、「新ゲインズボローカントリー倶楽部」のほうで、J C ・ Y E G の交流コンペを開催させていただきます。先日、出席の内容をファックス差し上げていると思いますが、大変恐縮ながらこちらのほうに返信欄が入っておりませんでした。出席いただける方は、事務局のほうに直接ご返信いただけますようよろしくお願いいたします。

■本日のプログラム

ゲスト卓話

- 公益社団法人白河青年会議所 第62代理事長 片野仁様



改めまして、皆様こんばんは。わたくし本年、公益社団法人白河青年会議所、第62代理事長を務めております片野仁人と申します。改めまして、どうぞよろしくお願いいたします。そして、本日はこのような貴重な機会を賜りました事を熱く御礼申し上げます。ありがとうございます。わたくし現在39歳でございます。今度の2月で40歳を迎えるそんなわたくしでございます。諸先輩方に比べまして、まだまだ知識も経験も及ばないところが多々あるかと思っております。そんな私が諸先輩の皆様にどんなお話をすることが一番良いものかいろいろ悩みました。いろいろ考えた結果、ここまでの生い立ちだったりやってきたことを振り返ってみて、白河青年会議所の理事長としてお招きいただいておりますものですから、その白河青年会議所で学んだこと。そして、それを今年は理事長と会のことを力を尽くすことはもちろん、会社の仕事においても何か新たな試みを行うことで生かしていきたいと思っております。本日は、そんなお話をさせていただきたい

と思っております。どうぞよろしくお願いいたします。まず、わたくしの簡単な自己紹介をさせていただきます。1981年2月3日に、わたくしは片野家の長男としてこの世に生を預かりました。祖父が片野仁と申します。祖母が片野タカコと申しまして、父親が片野儀一郎、母が片野マチコと申しまして、4人兄弟の長男でございます。よく笑う赤ちゃんで、よく泣く赤ちゃんだったと聞いております。感情豊かな赤ちゃんで見ていて面白かったと、よく祖父から言われていたことを思い出します。そして、わたくしの簡単な経歴をご紹介します。白河第三小学校に入学をいたしました。私が4年生の頃、旧校舎が解体されまして新校舎に移行する、そんな時期に小学生生活を過ごした時代でございます。そして、白河中央中学校に進学をいたしました。わたくしが1年生の時から、白河中央中学校では髪形を坊主にするというそんな時期でございます。そして、2年生のころからは髪の毛を伸ばしていいという、そんな時代の遍歴があった時期に入学をしたわたくしでございます。そして、白河高校の理数科に進学をいたしました。わたくしの入学した年までが男子校の時代でございます。わたくし共以降からは共学化が進んだそんな時代でございます。本日、来ていただいている成井匠君とは高校の同級生でございます。一緒に男子校の3年間を過ごしたそんな仲間でございます。そして、その後わたくしは立教大学というところに進学をいたしまして、理学部の生命理学科というところで4年間勉学に励みました。どんなことをしていたかといいますと、遺伝子組み換えの勉強をして4年間過ごしておりました。この当時、ちょうど1999年という時代でしたので、情報とかバイオが伸びる時代だと言われている時代でした。情報のほうのお話を申し上げますと、インターネットが急速に普及した時代でございます。Windows95、Windows98が普及して、Yahoo!で何かを調べる、そんなことが一般的になり始めた時代だったわけでございます。そして、バイオのほうはどんなことがあったのかと申し上げますと、この当時クローン羊のドリーというものが誕生いたしました。そして、映画では「パラサイト・イヴ」という映画があったり、「バイオ・ハザード」という映画があったりいろいろありました。「パラサイト・イヴ」というのは、細胞を培養して女性を蘇らせるというお話で、その主演をしていたのが葉月里緒菜さんでした。そんな時代があって、情報かバイオが伸びるという時代にこういった学ぶ選択肢に取ったわたくしでございます。その後、大学院まで進学いたしました。大学院まで進学した理由というのは、科学の知識を生かして仕事に生かしたいですとか、研究開発に関する仕事をする事で世の中に新しい商品を生み出したい、そんな思いがあって勉学に2年間励みました。ですので、立教大学でわたくしは6年間過ごしたわけでございます。こうしてみると、卒業を私は既に卒業5回しております。人より多めの卒業を重ねております。その後、2005年4月に「株式会社湖池屋」という会社に入社をいたしました。商品開発部というところで約6年間仕事を携わってきました。この「湖池屋」という会社では、ポテトチップスを中心とするスナック菓子を製造販売しているメーカーでございます。「カラムーチョ」という辛いスナックの商品開発や「スコーン」という商品、「ドンタコス」という商品、「ポリンキー」という商品がありまして、その全般を担っておりました。また、この会社にはもう一つ「ピンキー」というお菓子がありました。どんなお菓子だったかといいますと、ピンクのお猿さんがおまけでハートが入っていて嬉しいというそんなCMでありました。商品特徴があったお菓子でございます。こんなものに携わっていて6年間を過ごしてまいりました。そして、このタイミングでわたくしはちょうど30歳を迎えるそんな時期でございます。そのタイミングでわたくしは会社の同僚で

あった妻、加那と申しますが結婚をいたしまして、白河に戻り家業を継ぐ決断をいたしました。その後、長女が2012年に生まれまして、長男のアラタが2014年の8月に誕生いたしました。長女は今小学3年生で、長男は幼稚園の年長さんになっております。簡単に家業の紹介をさせていただきます。わたくしが営む会社は「株式会社カタノ」という会社でございます。どんな業務内容かと申し上げますと、まず一つが肥料や農薬の販売業でございます。そして、米穀集荷販売業を営んでおります。今まさに秋の実り、稲穂が垂れる農園風景の中、どんどん稲刈りが進んで稲がなくなっているかと思いますが、そういったものを農家さんから買い入れて販売に繋げていくと、そんな仕事も行っております。そしてもう一つ、乾麺の販売業を営んでおります。「白河関のそば」というおそばの乾麺や細いおそばの「そばそうめん」という商品も取り扱っております。主にこういった事業をおこなう会社で今、日々精進しておるところでございます。そんな私は2016年「公益社団法人白河青年会議所」にいろいろなことがあって、悩みながら白河での仕事を重ねていく中で入会することを決断いたしました。そのいろいろあった中身なんですけれども、簡単に申し上げますと白河に帰ってきて家業をまず覚えるのに必死な日々を過ごしており、会社と家の往復の中心の生活でした。そういった中で、どうしても続いていたことがありました。それはどういったことかといえますと、やはり親に頼ることがどうしても出てきてしまう、そういった場面が多かったように思っております。何故、そういったふうになるかという、やはり私は2010年まで東京において帰ってきて、じゃあ知り合いがいるかというほとんど白河に帰ってきて知り合いがないそんな状態でした。そうなりまして、やはり相談する人というのが親に限られてまいりまして、もうその当時私は娘も息子もおりましたので、このままでいいのだろうかという危機感が芽生えました。そんな時に、同世代のこの地域で頑張っている仲間と同じ時を過ごして切磋琢磨をして自分を成長させる必要があるのではなかろうか。そんなふうに思ったのが2016年でございます。そして、2016年3月にわたくしは入会をいたしました。その年は総務委員会の委員を務めました。その後、理事となりまして企画室副室長という職を預かりました。そして、2018年、人を照らす総務委員会と書いてありますが、この年は「公益社団法人白河青年会議所」が創立60周年を迎えた年でございます。総務委員会の担いに加えて、その年の記念式典をお預かりするそんな役職でございました。そして、2019年にわたくしは企画室室長という役職を預かりました。この会でこの企画室長という役職をお預かりすることは、その翌年会の理事長になる、そういう意味合いのある役職でございます。その企画室長は会の全体事業を取り仕切るそんな役割もございました。2019年、私が全体事業として取り組んだのが「平成感謝祭」という全体事業を計画し実行いたしました。2019年というのは平成という時代が終わりまして令和という時代を迎える、そんな時代の転換点を迎える一年でございます。平成最後の日に、平成という時代を振り返り新しい時代を皆で迎えよう。そんなコンセプトのもと、こういう事業を思いつきました。事業実施までに様々なやり取りが会の中ではございます。わたくしのほうでこれをやってみたくと思う、そんな情景を会議の中でいたします。意見が届きます。何故、これをやるのでしょうか。どこでやるんですか。ニーズありますか。そんな意見のやり取りを交わします。具体的にこんなブースを設けて平成という時代を振り返り新しい時代を迎える。みんなが楽しんで新たな時代を迎える、そんな一日にしたいんだ、具体的な企画立案を深めてまいります。やるのはいけど費用幾らかかるの。資金調達どうするの。こんなやり取りも交わされます。会場の準備でできました、押さえられました。

ブースの準備物、手配済みでした、いかがでしょうか。やるのはいけど集客のための広報どうするんですか、準備してるんですか。こんなやり取りがどんどん続いてまいります。企画段階から事業当日まで、多くの議論が交わされました。でも、これは事業をやらせたくないからこういうことが飛び交うんでしょうか。結果として、そんなことはなくてこの事業をより良くするために、会員皆で様々な意見を交わしあい事業というものを高めてまいりました。実際にどんな広報をしたかといえますと、こんな広報をいたしました。事前告知として、「ゴジてれChu!」という番組でイベントPRコーナーが設けられております。そこに私共「公益社団法人白河青年会議所」といたしまして出演をさせていただきました。いろいろな意見を飛び交わした仲間たちがこうしてPRに協力をしてくれる、そんな会でありそんなメンバー達でございます。本当に様々な考え方や様々な個性があるメンバーが沢山います。左上には、平成が生んだ名キャラクター「クレヨンしんちゃん」に扮してくれているんですね。赤いトレーナーを着て白い半ズボン、そして顔まで近づけて出演してくれました。この時に、「おかん」というキャラクターもいるんですけども、PR後に完全にキャラを取られたってほやいてたのをよく覚えています。それぐらい皆本気で楽しんでPRに励んでまいりました。そのおかげもあってか、当日残念ながら雨に見舞われてしまったんですね。でも、小っちゃな子供が雨具を用意して会場まで来てくれました。そして、クレヨンしんちゃんショーを楽しんでいただいたり、平成を振り返るブースを設けたんです。ちょっと見えにくいかもしれないんですけども、8センチのシングルCDというのがあるんです。これは「愛は勝つ」とか「SAY YES」とか、そういった音楽を聴いていた世代の方には当たり前なことなんですけれども、高校生とかが見ると「何、これ。」と言うんですね。やっぱり、それだけ平成という時代は30年以上ありましたので、いろいろな世代の違いというか、新たな発見というか楽しんで見てくれる視点っていろいろあるんだと感じたブースになりました、イチローや松井、当時ビジュアル系バンドなんていうのも流行りましたし、その奥にはちょっと見えませんが、任天堂が作った「GAME BOY」というもので、「テトリス」を楽しむコーナーでしたり、「スーパーファミコン」の「ストリートファイター2」というゲームを楽しむそんなブースを設けました。おかげさまで、こういったブースが各福島県内のテレビ局民放4社とNHK、そして県外の報道関係者にもお越しいただいて取り上げていただくことができました。みんなの意見を交わしあって事業を高めてきた結果なのかなと思っております。しかし、雨は降り続きます。メンバーは雨の中でも来てくれるお客様がいる限りおもてなしをして、ベンチをタオルで拭いたりしてお客様を迎えてくれました。平成最後の日でございます。この年2019年は金子善弥理事長の年でございます。スローガンに「百花繚乱」というスローガンを掲げておりました。その百花繚乱になぞられて、色とりどりの花で平成という時代に感謝をするそんなしつらえもありました。そして、こちらがフィナーレでございます。ありがとう平成、ようこそ令和、時代の変換点をメンバー、そしてボランティア、お客様と一緒に祝う、そんな一日を過ごすことができました。いろいろな人の力を借りて大きなことを成し遂げる。わたくしはこういうかけがえのない経験をこの白河青年会議所でいたしました。共に創る、私にとってこれが一番の学びでした。この共に創るということは様々な場面で大切なことではなかろうか、そんな思いが胸に残っております。そして本年、スローガンに「共創」と掲げました。共に創る「共創」でございます。「～共に創ろう、白河の未来～」仲間と皆で2020年も白河の明るい未来に向けて頑張っていこうと、そんなスローガン

を掲げたわけでございます。理事長としての会の中での任務、それは2020年既に誘致が決まっていた第50回目となる福島ブロック大会を成功させるために全力を尽くす。このために予定した段階から必死に頑張っていました。しかしながら、残念ながら新型コロナウイルスの情勢によりまして、当初思い描いていたようなブロック大会を実現することは残念ながらできませんでした。そして、理事長を務めながら何かできることはないだろうかと考えていた中で、個人的に取り組もうと思ったことが「共創」、地域の方々と協力して新しいことに取り組んでいく、そんなことも掲げて2020年をスタートさせたわけでございます。青年会議所が推進すること、その中にSDGsというものがございます。SDGsというのは、社会面、経済面、環境面でできることを行い、2030年がより良い世界になるようにする取り組みでございます。よく最近進んでいることの一つとして、プラスチックの削減というものがございます。それはどうしても環境に分解されないものですから、環境の中に残ってしまうプラスチックの使用量を減らしていこう、そんな取り組みがあります。それがSDGsの一つに寄与する行動でございます。社業でできることは何かと考えるようになりました。SDGsに取り組んで社業で何かやろう、そう考えると正直言うと難しかったんですね。何で仕事でこれをやるんだろう、そう考えると入り口が非常に狭いもののように感じました。でも、2030年というものがどんな時代なのだろうかと考えますと、わたくしはその頃50歳を迎えます。子供たちは義務教育を終える時代でございます。そう考えますと、近い未来なのだなと考えるようになりました。であれば、そんな2030年がより良くなるのであれば何か出来ることをやってみよう。そんなふうに素直に思うようになりました。弊社の中で出来ること。肥料販売業を行っている弊社では、こんな商品がありました。生産効率を向上させて、かつ環境にも優しい、そんな肥料を扱っております。生産者と共にこの地域でこの地域ならではのSDGs、何か新しいことはできないか、そんなふうに思うようになりました。J Cで学んだこと、出来ないかなからやってみよう、これがJ Cで学んだこと。マインドの変化でございます。生産効率を良くする肥料の中にはこういう樹脂でコーティングされた肥料というものがございます。なんでコーティングされていると生産効率が良くなるかと申し上げますと、肥料の溶け方がコーティングされているものの隙間からじわじわ溶け出すことでゆっくりと効果が長くもつんです。ですので、効率が良く何回も何回もすぐ解ける肥料をやるのではなくて、じわじわ溶け出す肥料を使うことで生産効率、手間を省くことができる、そういう理屈でございます。そして、そんな肥料にはもう一つございます。こちらが硫黄コーティング肥料と申します。左側は樹脂コーティング肥料、右側は硫黄コーティング肥料です。樹脂は化学合成物質です。主成分としてプラスチックやウレタンが主成分となっております。こちらが殻がこのまま残ってしまうので、ほ場や土壌中にプラスチックが残存されます。中には水路に流れ落ちて水質汚染に繋がる、そんなリスクもある商品でございます。しかしながら、効果は非常に計算されたものでございます。一方で硫黄コーティング肥料、こちらは自然物質でございますので、微生物により自然分解されます。ですので、環境にやさしいというのはそういう理屈でございます。こちらはネギ農家さんに活用していただきました。この時点で水質保全に関わる14番のSDGsの目標、魚がいるんですけども水の改善ですね。そして12番の目標、つくる責任つかう責任、使うのであればなるべく良いものがないよね、そういう理屈のもと14番と12番に寄与する活動に繋げてまいりました。また、ネギ農家さんにとっては生産効率が向上しますので、手間が省けるのでその空いた時間でネギを配達するなどの活動を行うこ

とができるようになりました。そんなネギを使ってもっと何か発信できないかと考えました。白河が誇るコンテンツ、それは白河ラーメンでございます。本年、白河飲食業組合の青年部長を務めている「菊忠」の菊地構道さんに協力を賜りまして、このネギを使ってラーメンを作ってもらえないか、そんなことに取り組んでまいりました。それがこんなラーメンでございます。この白河市内のSDGsの取り組みを実施することで、福島民報さんや福島民友さんに取り上げていただき、先月KFB福島放送のSDGs特集のニュースでも取り上げていただくことができました。理屈としては、弊社とネギ農家さんとラーメン屋さんとお客様、私が最初考えた一つの点であったSDGsの取り組みに農家さんが加わりました。点と点で線になる。そして、ラーメン屋さんに加わりました。三つの点ができることで形ができました。そしてそこにお客様が加わっていただくことで、こうした小さいながらもSDGsをもとにした白河のビジネスモデルを作り上げることができたと考えております。普通の社業、各々の社業の中でSDGs、8番、12番、14番、そして今までこれに取り組みなければできていなかったパートナーシップができたことから17番、この4つのSDGsに寄与する取り組みができるようになったと考えております。まだまだ小さいので、これからいろいろと工夫を重ねていくところではございます。白河には本当に多くの財産がまだまだ存在していると私は思っております。社業でまだできることがあるのではなかろうか。この白河では耕作放棄地を再活用して農産物を生産しているプロジェクトがございます。この方々と一緒に何か新しいこと出来るのではないだろうか、そんなふうに考えるようになりました。これも2020年の1月のことでございます。そばという作物は多少荒れ果てた農地でも花を咲かせ実を結ぶことができる作物でございます。そして、白河はそばが歴史的に有名なコンテンツでございます。これを活用して乾麺販売業を営むわたくしは何かできないかと考えまして、コロナ禍で最も品薄となった食品の一つであるパスタに繋げていこうと思いました。そばを使ったパスタ、そばパスタでございます。しかしながら、袋を作るってすごくコストがかかるんです。その商品の為のオリジナルの袋を作るにはコストがかかる。費用が大きい。だから、ラベルを張って商品化してみよう。取りあえずの形で形作りました。しかし、やはり納得できません。何か良い方法はないだろうかと考えました。ここで生きたのが全体事業の経験でございます。財源がないのであれば、全体事業の時のように何か補助金を使えばいいよね。白河アグリビジネス補助金というものを申請をしました。企画書を書いてプレゼンに臨んだわけでございます。費用の工面は補助金を活用することでクリアをできました。じゃあ、デザインをどうしよう。わたくしの能力では人の目を引く共感を呼ぶようなデザインを生み出すことはできません。全体事業の経験から、いろいろな個性がある仲間たちに声をかけて物事を作り上げた経験、こちらを生かしまして地域の女性の力をお借りすることにいたしました。その方が「水の谷工藝」の西山さんという方でございます。やはり地元の方なのでコンセプトを共有していろいろと打ち合わせを重ねることができました。そして、まだ仮の段階ですがこういったデザインを仕上げていくことになりました。果たして、この段階で商品として魅力があるのだろうか、外観どうだろう、中身美味しいのかな。意見が欲しいなと思いました。わたくしが今、SNSに取り組んでおります。フェイスブックやInstagramを通して全く知らない方々なんですけれども、料理の好きな主婦の方やモニターさんにお声がけをして、サンプルを配布して調理してもらいました。そして、できたのがこんな投稿でございます。こういう投稿が結構反響というか、いいねを押ししていただけましたものですから、仮の想像上のことなんで

すけれども興味を持ってくれる方がいるんだということが推測されました。ちょっと話が反れますが、この地域では小麦も作っているのでこの小麦を使って何かできないかなと思ひ、先日とあるイベントで丸パンを作って販売を試みました。やっぱり、白河の小麦ってあるんだとすごい興味を持ってくれるお客様が結構いらっしやったので、まだまだ白河でできることってあるんだと感じることができたストーリーでございました。まだ、社業で新たな取り組みですので、そばパスタについてはそんなに実績がないのですけれども、肥料については販売量を増やすことができましたし、ネギ農家さんはSDGsという取り組みに参加したことによって、ネギがお寿司屋さんに最近採用されました。何でかという、水質保全に寄与する活動をするネギということ、魚も大切にそんな企業価値イメージアップに繋がるのではないかとということで採用していただいたらしいです。ラーメン屋さんについても、新聞やテレビで放映されたことで、いろいろな活動をしているお店だということで認知度が上がったと聞いております。JCで学んだことでございます。いろいろ取り組んでいく中でまとめますと、背景や目的に沿って考える思考力が高まったのではないかと想像しております。そして、企画し実行による蓄積、これは間違いなく私にとって大切な経験になっていると思っております。そして、人に相談し意見を集め協力を得る。他人の持つ感性を感じ取る。そんな学びを得たのかなと思っております。こんな様々な学びや気づきを得ることで、私の中に宿ったもの。それが自分を信じる心、すなわち自信でございます。この自信を大切なものとして、自分を信じてこれからも前に進んでいこうと思っております。少し余談でございますが、SDGsってそんなに取り組んで意味があるのかなと考えた時に、こんなお話がございました。2025年には大阪万博が行われます。2025年は今から5年後。2030年と2020年のちょうど中間でございます。そこで、大阪万博においてSDGsの取り組みを中間報告をする。そんな意味合いがあるイベントも行われると聞いております。ですので、会社を行っている以上、中期計画として5年後。長期計画として10年後を見据えるにおいても、このSDGsという取り組みに沿って何かをやっていくというのは新たな基軸になるのではないかと考えておりました、これからもJCに入っていて知ったSDGs、そしてJCで学んだこと、それを生かして新規事業をまだまだ取り組んでいきたいと考えています。そして2030年、今から10年後ですね、様々な生業を行う人達と協力する共業によって、多くの方々の力をお借りして10年後の白河の未来を共につくり上げようと思っております。本年のスローガンの「共創」をJCの理事長としてのスローガンではなく、わたくしの10年後までのスローガンとして掲げ、今後も頑張っていきたいと思っております。お聞き苦しい点があったかと思ひますが、これがわたくしのJCでの経験を社業へ還元する、そんなお話してございました。ご清聴ありがとうございました。最後にですね、私も白河青年会議所まだ今年度事業がございまして。それを取り仕切る企画室長、成井匠君より事業PRをお願いできればと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

○公益社団法人白河青年会議所 企画室長 成井匠様



突然お時間をいただきまして申し訳ございません。只今紹介に預かりました今年度、企画室長を預かっております成井匠と申します。平素は父がお世話になっております。今年度、全体事業のほうなんですけれども明後日10月10日に、「撮って食べて探そうウォークラリー」という事業を開催いたします。こちらの事業なんですけれども、理事長が言ったとおり昨年末12月からコロナの感染が広まりまして、イベント

ことごとく潰れました。そして私たちがやるべきだった7月の50周年のブロック大会、こちらも中止になってしまいました。そういった中で、何かしらできることはあるんじゃないかということを考えて、その結果考えたのがこのウォークラリーになっています。白河で何もやらないというわけにもいかないと思ひまして、こちらのイベントはどういうことになってるかという、まず開会と閉会こちらウェブで行います。事業時間も好きな時に参加して好きな時に終わることができるように工夫しました。参加者の人たちは10か所あるポイントを自由に回っていただくので人が密になることもなく、そして去年の末から飲食店のほうも外出を非難される傾向があつて苦しくなつていたとお聞きしましたので、白河JCのほうで金券を使ひまして、参加者の人を先着400名になったんですけど、そちらの方達に金券を配つてその日協力していただける店舗で飲食をして、飛び出た分は自分で払つてという様な形で飲食業を中心に経済を活性化できれば、そんな思ひで今回の事業を作りました。あいにく理事長が全体事業を開いた時と同じように雨が降りそう、しかも目下台風が来るんですけど、何とか時間中はもちそうな形なのでこのままやっぺいこうという形になっています。当日は白河市中、雨が降った場合どうなるかわからないですけど若い人達で溢れかえつていれば嬉しいなと思ひますので、その時は温かい目で見守つてください。ちなみに、おかげさまで持ちまして450名を超える集客を今回得ることができました。やりかた変えれば、やっぱり人は動いてくれるんだなと思ひますので、こちらのほうも是非来年に向けて同じような活動をしていきますので、是非ご協力をよろしくお願ひします。



○吉野敬之会長

大変貴重な感慨深いお話頂戴しまして、ありがとうございます。実は皆さんご存じないかもしれませんが、私も青年会議所というところに若干所属しておまして、この中にも数多くのOBがいらっしやいまして、私は数多くの理事長経験者の方々も存じ上げております。しかし、最近の理事長は非常に頭脳明晰だなど。今、笑つてらっしやる居川先輩とか齋藤先輩とかですね、いろんな先輩方いらっしやいますけども、びかいちだなど話を聞きながら思つておりました。ロータリーではJCでいう地区担、ブロック長に相当する人をガバナーと呼びます。先々週、ガバナーの方がいらっしやつてお話を頂戴したんですけども、その際にコロナのこういう年に当たつたということは、きっと神様が与えてくれたこの年だからこそ理事長になった。私もこの年だからこそ会長になったというふうな、神があたえてくれた素晴らしい時間なんだよというふうなお言葉を頂戴しました。半信半疑ではありますが、その言葉を信じて私の任期は来年の6月まで、JCは12月までということだと思ひますけれども、是非今お話になつたような気持ちを持ち続けて、お互いに頑張っていきたいなというふうに思つております。本当に貴重な話ありがとうございました。

